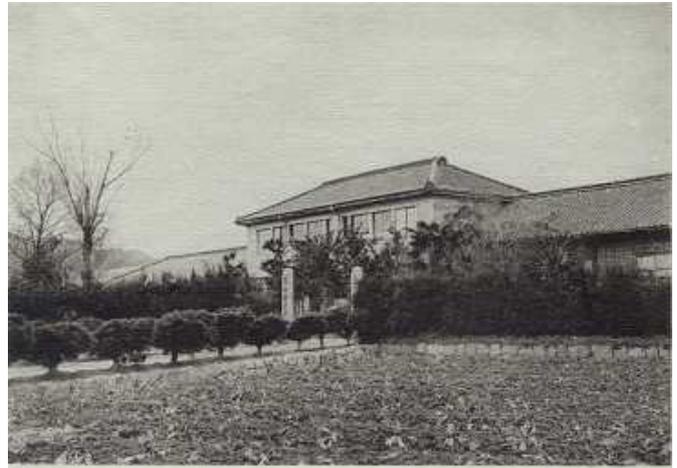


「青柳高等小学校」物語

明治5(1872)年に^{がくせい}学制が出され、日本の近代教育制度が始まって150年余り。古賀でも翌年には小学校が開校しました。その後、いろいろな学校が生まれましたが、教育制度の変更の影響で無くなってしまった学校もあります。そのひとつが、^{あおやぎこうとうしょうがっこう}青柳高等小学校です。

旧^{かすやくん}糟屋郡北部の地域の子どもたちが通う高等小学校として設立されました。その後、義務教育であった^{じんじょうしょうがっこう}尋常小学校に高等科を併設して^{へいせつ}尋常高等小学校が生まれ

る中、最後まで単独の高等小学校として存続しました。昭和11(1936)年には、福岡県が優秀な教育活動を行っている学校を表彰する「^{せいひょうこう}旌表校」の表彰を受けています。



青柳高等小学校正門・校舎
(第3期 昭和5年頃：川原)
現在の青柳交番の方向から見たもの

- 所在地：第1期 旧青柳町の^{まちぢや}町茶屋跡を仮校舎（現青柳町1107番地 他）
第2期 旧青柳村の神田に新校舎建設（現青柳2642・2645・2646番地）
第3期 青柳村川原に新校舎建設（現川原1263番地）
（「旧青柳町」「旧青柳村」は町村制施行前 「青柳村」は町村制施行後）

＜青柳高等小学校の^{へんせん}変遷＞

- 開校 明治20(1887)年4月 糟屋郡全町村組合立の糟屋郡第二高等小学校として
明治21(1888)年7月 旧青柳村の神田に新校舎を建設し移転
※この頃、青柳高等小学校と改称
- 明治22(1889)年 町村制施行により、青柳・席内・小野・新宮・立花・香椎・和白の7ヶ村組合立に
- 明治30(1897)年 和白高等小学校新設→香椎・和白村はこちらに移る
- 明治40(1907)年7月 青柳村川原に新校舎を建設し移転
- 明治45(1912)年 尋常小学校に高等科が併設され、尋常高等小学校になる中で、青柳高等小学校は単独で残る。青柳・席内・小野・立花の4ヶ村学校組合立に
- 昭和 6(1931)年 席内尋常高等小学校ができて、席内村が組合から脱退。小野・青柳・立花の3ヶ村組合立に
- 昭和11(1936)年 福岡県から第36回旌表(せいひょう)校表彰を受ける
- 昭和16(1941)年3月 ^{こくみんがっこう}国民学校令によって高等小学校が廃止され、50年あまりの学校の歴史を閉じる

旌表制度（前半は「旌表旗」が学校に渡された）は、明治34年から昭和21年まで続き、県下で138校が表彰されています。古賀市・糟屋郡内ではわずか5校にすぎません。市内では、^{むしろうち}席内尋常高等小学校（現古賀東小学校）が受賞（昭和8年）しています。表彰を受けた学校は、地域の^{ほこ}誇りとなっていました。

青柳高等小学校は、開校当時は4年制で、明治40(1907)年に尋常小学校の義務教育年限が4年から6年になると、2年制になりました。右表は、明治時代の青柳高等小学校の児童数の変化です。明治40年と41年の大きな減少は、4年制から2年制になったためです。男子に比べて女子の就学率が低かったものが、しだいに女子の就学数も増加しています。

義務教育は尋常小学校だけだった時代、高等小学校に通うのは大変でしたが、中等学校以上は無かった古賀の最高の学び舎として、多くの人材を輩出しました。しかし、昭和16(1941)年3月、国民学校令の施行によって、約50年の歴史に幕を閉じました。



第2期校舍跡地に立つ記念碑

	男子	女子	計
M31年度	253	59	312
M32年度	254	55	309
M37年度	235	81	316
M38年度	255	103	358
M39年度	272	115	387
M40年度	274	117	391
M41年度	140	69	209
M42年度	118	79	197
M43年度	118	81	199
M44年度	113	116	229
M45年度	137	60	197

明治期の児童数の変化(部分)
 (『糟屋郡教育史』より)



授業風景

上：手工実習
 右：家事実習



郡連合運動会男女子優賞旗及宗中優賞カップ



第3期校舍跡地に立つ記念碑
 青柳郵便局の前付近

<参考文献・資料>

青柳高等小学校『卒業記念写真帖』昭和5年3月
 糟屋郡教育研究所編『糟屋郡教育史』昭和49年